

# 小柳司氣太・日記（一）

## 解題

漢学者小柳司氣太は、明治二十三年（1890）の二十歳の時、一年間の日記を三分冊に書きとどめた。それぞれの表紙には、ノートを切り抜いて切り絵を貼り付け、そこに表題を書いている。一冊目は一月から三月で、切り絵の瓢箪には「思くさ」と書いた。二冊目は四月から八月で、切り絵は鉢植えの梅で、「思たけ」とした。三冊目は九月から十二月までで、切り絵は破損して何の絵か判明しないが、表題は「忍草」である。（写真参照）そしてそれぞれの表紙裏にも、変体仮名を用いた表題を書き記している。一冊目にのみ「柳子」とあるが、小柳司氣太がよく使用した号である。三冊のノートは、約13cm×20cmの大きさで、23行の横罫である。

小柳司氣太は明治三年（1870）十一月三日に現在の新潟県三条市上保内に生まれた。父は代々医家である熊倉玄周、母は現西蒲原郡中之口村東中の代々庄屋役を勤めた小柳清長とヤスの娘クマである。しかし父玄周は翌四年事故で亡くなったため、母クマは一歳の司氣太を伴い実家の小柳家へ身を寄せた。その後クマは西蒲原郡大戸村の庄屋役を勤めた諸橋加太次と再婚した。司氣太は祖父清長の長男でクマの兄に当たる伯父小柳卯三郎に子供がなかったので養嗣子となり、小柳司氣太となった。まもなく卯三郎に実子清熙が生まれたため、家督は清熙が継ぎ、司氣太は学問の道を志し、明治十八年の秋十六歳の時祖父清長や養父卯三郎と同じく私塾長善館（西蒲原郡粟生津村）にて鈴木惕軒（すずきてきけん）や鈴木鹿之介に漢学・数学・英語を習った。長善館で二年間勉強した後十八歳で上京し、日本中学校（当時の東京英語学校）に入学したが肺を患い二十一年初夏に一旦帰郷し、療養の後再度翌二十二年の初夏に上京し復学した。このあたりのいきさつは、司氣太本人が日記の中で書き綴っている（一月二十一日を参照）。本日記は、この時二十歳の青年小柳司氣太の活き活きとした一年間の日記である。彼の目は学問は云うまでもなく、内外の時事の動きにもたえず関心を抱き、新聞の記事を丁寧な日記の中に書き写し且つ批評を与えている。殊に伯父であり養父でもあった小柳卯三郎が自由民権運動に関わっていたことにも影響されており、政治に対しても大いなる関心をもって書き記している。

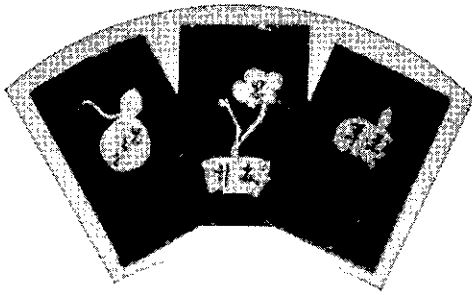
この日記は去る平成四年、小柳司氣太の一人娘横山節子が亡くなった後、節子の次男幸郎氏（小柳司氣太の名跡を継ぐ）が諸々の遺品の中から発見した。遺品の中には、司氣太の論文の草稿や巻物に仕立てた司氣太宛の書簡（「雙鯉帳」）などがあるが、本稿以外の日記は見当たらない。小柳幸郎氏より、縁者である私に託されて解説を進めていた。折しも新潟県西蒲原郡中之口村教育委員会において、郷土の生んだ漢学者小柳司氣太を顕彰する記念誌の事業が進められていた時であった。小柳家の出である私の母方の縁者として、私も聊かの協力をする事になり、日記の簡単な紹介をした。（「近世之醇儒 小柳司氣太」村山吉廣監修、本年6月刊行）一方この日記の存在を、東京大学史料室の中野実氏に紹介した。中野氏によれば、小柳司氣太は再度上京して、明治二十四年に「帝国大学文学部文学部（漢学科）」へ入学する前年までの二年間「国民英学館」で学んだ。その時の一学生の日記として、貴重な資料でもあるので、「紀要」で紹介してはどうかということになり、本稿で全文掲載することになった。

小柳司氣太の漢学者としての業績などは「日記」紹介後に追々記すことにする。

（浅見 恵）

凡例

- 1、原本はB6判の大学ノート（13×20cm）に墨書で横書きに書いてあるので、そのままの体裁を取った。新聞などからの抜粋記事を鉛筆で書き記しているが、あえてその表示はしなかった。
- 2、漢字は原本通りとした。但し、「归」は（帰）に当てた。
- 3、仮名はほとんどカタカナであるが、変体仮名は平仮名に直した。また、造字の「冫」はコト、「冫」はトモ、「冫」はトキにした。「耳」「子」をカタカナとして使用している場合は「ニ」「ネ」とした。
- 4、外国語はそのまま示した。
- 5、明らかな誤字は〈 〉をもって訂正した。
- 6、解読不能の文字は、推測可能な文字を宛て、尚不能な場合は文字数を□で示した。
- 7、改行は「」をもって示した。但し、仮名遣いは原本のままにした。
- 8、二行ワリの改行は／をもって示した。
- 9、読みやすくするため適宜句点、のみ付した。
- 10、編集の都合上、各ページの冒頭に「1頁」の様に示した。



表紙

「明治廿三年自一月至三月

思くさ 一

柳々子

」

[1頁]

明治廿三庚寅年（旧暦己丑ノ十二月十一日）

紀元二千五百五十年

西暦千八百九十年

光緒十六年

一月一日曇

- (1) 天気終日曇且少雨
- (2) 昨夜友人打集マリ心計ノ祝シテ廿二年ヲ「送ラバヤト夫々ノ物ヲ整ナイ、五時頃ヨリ」酒ヲ始ジメタリ、実ニ薄々ノ酒モ茶ニ勝レリ」トカヤ、献酬

数十回十二分ノ歡ヲ尽シ」テ七時散会セリ、夫レヨリ寝ニ付キシカドモ」睡氣更ラニ催サズ、九時十時ト打過ギレ」バ、月ハ玻窓ヨリ室内ヲ窺カエテ、折々聞」エルノ声神益盛ニシテ、国愈明既」往事ヲ回顧スレバ四十九年ノ非ヲ知ルモ」アラネドモ、凡夫ノ悲シサ過ヲ寡フセント欲」スト金モ得ベカラズ、不道德不義理ノ事」モ度々アリ、若シ昔ノ賢婦ニ倣ラヒ赤白」ノ二團絲ヲ作ラシメバ、赤團如何許」リノ大サゾヤ、然レドモ年頃聊サカ父母ノ」恵ニヨリ書物ノ一端ヲ看タルノ功德ニテ」折々良心ノ責ヲ受クルハ、亦タ難有事也」(カアライル) 氏ハ書物ヲ評シテ

[ 2 頁 ]

人作中尤モ驚ロクベキ者、尤モ價値アル者」ト云ハレタルハ、善ク穿チタル語ナリ、或ハ」故郷白髮倚門ノ情ヲ追想シ、或ハ」身ノ行末ヲ考ガヘナドシテ、遂ニ午前四」時頃ニ至タリ、少コシマドロム心チシタリ」シガ、ハヤ東雲ノ明鳥、明治廿三年一」月一日ノ旭日照ル頃ナレバ、直ニ起」出デタリ

- (3) 山崎 保倉両氏ニ新年ノ礼ヲ述ベ」家嚴、熊谷、吉川、五十嵐、竹石、熊倉」鈴木ノ六氏ニ賀状ヲ發ス
- (4) 華族ノ總數五百九十一戸」内公爵十一戸、侯<侯>爵廿八戸、伯爵八十戸」子爵三百五十五戸、男爵百〇六戸」女戸主三戸、無爵八戸、以上ニ據」リテ貴族院議員撰擧資格者ヲ調査ス」ルニ、伯爵七十四名、子爵三百人、男爵八」十四人、總計四百五十八人ナリト云フ
- (5) 全国ニテ八十才以上ノ男女ハ、總數」二十六万四千四百四十五人ニシテ、内男」十万二千二百四十七人、女十六万一千八」百九十八人ナリト云フ

[ 3 頁 ]

- (6) 昨明治廿二年七月一日ノ新糸以来、同」年十二月三十一日迄横濱ヨリ輸出セシ生」糸ノ總計ハ、佛国郵船ニテ七千六百〇四」個、英国郵船ニテ四千七百十九個、米国」郵船ニテ一万五千二百二十一個、独逸」郵船ニテ百六十七個、合計二万七千六百」十一個ナリト云フ(四五六件日本新聞本日發ノ行ヨリ拔萃ス)」
- (7) 熊倉操、佐藤良、阿部、霜鳥ニ、早川平」ノ五氏賀新年ノ為メニ來訪ス」
- (8) 嗟呼余レ<ノ>不幸幼ニシテ世ノ罔極ニ遭ヒ」熒々タル孤独ノ身ナリシヲ、仁慈ナル祖父」母及ビ叔父鞠養ニ手ヲ尽クシ玉マエ、特ニ」祖父愛育一方ナラズ、遂ニ不肖ノ身ヲ以テ叔」父ノ家冢タルコトヲ得タルハ、其恩海岳ヨリモ」高深ナル者ト云フベシ、然レドモ

愚蒙魯直」ナルヲ往々叔母氏ノ嚴教ヲ蒙ムリ、時々」恨メシク思フ事モアリ、里諺ニ曰ハク 愛子ニ」旅セシムルトサレバ今日ニ至タリ、聊サカ」人ノ末席ヲ汚カスヲ得ルハ、叔母氏育養」ノ致ス處古ノ舜帝ノ大聖大孝スラ猶ホ」昊天ニ號泣シ玉ヒシヲヤ、余ノ境遇豈」ニ悲シムニ足ランヤ、去ヌル歳叔母氏」故アテ去リ玉マヒ、余ヤ再ビ新ラシキ

[ 4 頁 ]

義母ニ仕ヘ奉ツルノ場合ニ立チ至レリ」人生ハ蜘蛛ノ如シト哲人ハ達觀セシ」カド、是レ考フレハ考フル程無理悖逆」ノ言ト思ハル、人生行路難トカヤ、無」端引続キタル一團ノ和氣ノ暴風ノ為」メニ、乱サレタル想モヒ出ス事ニ涙ノ落」ツルコトヲ知ラザルハナシ、孟子ノ曰ハク、天」ノ將ニ大任ヲ降サントスル云々トアレバ」奮發勉強スル者ノ隨分悲シキ限リナ」リ、嗚呼H o p e 我汝ヲ奈何セン

二日

霜鳥ニ、佐藤良其他昨日来訪ノ諸」氏ニ至タリ答賀ヲ述ブ、成田氏ニ賀状」ヲ發ス、此晚豚肉ヲ食ラフ」此日斯迦查氏社会學ノ開講ヲナス

三日

笹川氏へ賀状ヲ發ス」旧臘十二月十日佛国政府ハ巴奈」馬海峡工事視察トシテ委員七人」ヲ派遣セリ

[ 5 頁 ]

四日

成田、平松、山田ノ三氏ヨリ賀状ヲ送」ラル、山田氏ニ書ヲ發ス

五日

- 1. 吉川氏ヨリ書状來タル
  - 2. 全国医師現在數等内務省  
二十三年一月一日現在
- |         |          |
|---------|----------|
| 試験      | 五千二百十五人  |
| 大學卒業    | 一千二百八十七人 |
| 高等中學卒業  | 七十人      |
| 府縣医学校卒業 | 一千二百廿五人  |

奉職履歴 一千五百五十六人  
 外国医學校卒業 十五人  
 従来開業 三万〇三百七十七人  
 限地開業 七十六人  
 合計 四万〇三百二十一人

3. 東京圖書館

4. 米国大統領ハリソン氏ハ、國會ニ對シテ教書ヲ發シタリ、曰ハク第一派遣使」節ヲ増加スルコト 第二海關稅ヲ減ジ」保護主義ヲ執ルコト 第三烟草酒精稅則ヲ

[6頁]

解クコト 第四大政府ニテ國會議員撰舉ノ」管理權ニ反對スルコト 第五銀貨鑄造ヲ」嚴ニスルコト 第六大政府ニテ黑人教育」ヲ保護スル事業ナリ(二、三、四件日本ヨリノ拔萃セリ)

本日慶応義塾ニ往キ渡辺氏ニ面會ス」同氏ハ余ノ従弟ニシテ其母則ハチ余ノ叔母ハ、廿一年五月肺疾ニ罹リ京地ニ於テ萬里不販ノ旅客トナリ玉ヘリ、此」時余モ亦タ肺疾ニテ大病院ニ在リシ」ガ、幸ヒニ今日アルヲ得タリ、嗚呼同病ヲ」以テ幽顯途ヲ異ニシテ其遺孤ヲ見」ルニ至ル、人生ノ豫想スベカラザル此ノ」如トシ、目下余ノ著シヲ以テ寒威ヲ凌」グヲ得ル所ノ夜着モ是レ叔母氏生」存ノ日親カラ賜フ所也、渡辺氏」当年十四才幼稚舎ニアリ」

此夕佐藤良、木村、霜鳥ニノ諸氏」來訪ス、木佐ノ二氏ハ余ノ旧學友ニ」シテ霜氏ハ余ノ其令弟三郎氏ヲ知」レルヲ以テ交契シタル者ナリ、皆余ノ」益友ナリ、團欒茶菓以テ歡ヲ助スケ」談話百出シテ止ム、嗚呼身百里ノ」客トナリ榮独依ルナキノ際ニ当タリ

[7頁]

己レヲ擁護スルモ朋友ナリ、百難並至ノ」時ニ當タリ己レヲ救援スルモ朋友ナリ、朋」友ハ社會ノ父母ナリ、誰ヤラノ語ニ 暗」中ニ當リテ朋友ノ光独トリ悶メク ト云」ヒシハ味アル語ナ

リ、然レトモ其我ヲ」助クル者大ナル者ハ、亦タ我ヲ害スルコト大」ナリ、朋友ノ撰択豈ニ謹マザルベケンヤ 金匱ノ朋、功名ノ朋、歡樂ノ友皆真友」ニアラズ、然リ而シテ其真友タルヲ得ル」者ハ辛苦ノ友、頽劔ノ友ナリ、而シテ余ノ」不肖ナル未マダ一人モ之ヲ見ルコト能ハ」ズ、畢竟スレバ自身未ダ其徳ナキニ」ヨルニ、天下何ノ世カ豪傑ナカラシ、何」ノ時カ英士ナカラシ、爾ノ眼ヲ大ニシテ」之ヲ看破セヨ

六日

此日湧井 解良 林 五十嵐喜ノ三」氏ヨリ書狀來ル、大學寄宿舎ニ至タリ」熊倉氏ニ面ス」ウキルテル氏著 萬国史 ノ開卷ヲナ」ス、余客歲七月独逸 孝ヲ始メン」ガ、敢テ勤勉スルニアラザリシカド、涓」滴聚マリテ其字形ヲ知ルニ至レリ

[8頁]

幸ヒニ熊倉 鶴卷ノ二氏アリテ、常ニ」余ノ不明ヲ解訳シ魯魚ノ誤ヲ」正ス、然レドモ独逸ノ文格甚ハダ」錯雜、英文ト甚ハダ懸絶ス」故ニ余シエヘル氏文典ヲ反復ス」ルコト再三、猶ホ茫乎トシテ影ヲ捕フ」ルガ如トシ、今ヤ文運盛隆良師善」本其採擇意ノ如クナラザルハナシ、然」リ而シテ尚ホ義理胸ニ明ナラズ、一」章一句常ニ汲々及ハザルガ如トシ、是」ヲ以テ之ヲ觀レバ、吾人ノ先輩者ノ」功勞豈ニ少々ナラン哉、吾人ハ山陽」ノ安得類古人千載列青史ノ精神」ヲ奮ルハザルベカラズ

七日

1. 教會人員 (廿二年十二月調査)

新教 二萬七千〇十九人  
 天主教 二萬六千三百廿六人  
 日本政教會 一萬七千〇廿五人  
 合計 七萬〇〇七十人

2. カウエンジツシュツクワ會即ハチ英国」貴族俱樂部ノ醜聞流布シ、首領」ロードリナルトコーバ氏等大陸ニ逃レタリ

[ 9 頁 ]

巴里ノマルタン新聞ハ其事實ヲ表發シ  
タリ  
社會ハ之ニ注目セリ (昨年十二月廿日  
頃通信) (以上二件本日ノ日本ヨリ拔萃  
ス)」

八日 晴

1. 湧井 鮮林ノ二氏ヘ書ヲ發ス
2. 家敵ヨリ郵書來ル
3. 国民英學會始業、余過程ニ從ガヒ」  
校則休日ノ外毎日臨會ス
4. 東京控訴院ニ於テ、廿二年度民事  
控訴」ノ總數ハ千百十三年〈件〉、廿  
一年度ハ千百八十」件、廿年度ハ八  
百六十六件ナリ
5. 本邦駐在ノ獨逸公使ハ (ホルレー  
ベン)」ナル者ナリ
6. 昨日橫濱師範學校燒失、四千余円」  
ノ器械數千余円ノ書籍烏有ニ販シ」  
タリ (以上 4. 5. 6 三件日本ノヨ  
リ拔萃ス)

九日

明治廿二年全國麥類ノ産額」總計千五  
百三十万五千四百九十四石」此作付段  
別百六十五萬五千七百七十二町六段歩」  
又既往三年間ノ平均數ニ比スレバ、四  
十」一万七千〇六十石ヲ減ズ、蓋ダ  
シ氣候ノ不」順ニ源 (原) 因スト云フ

[10頁]

明治廿二年度橫濱貿易市場統計

輸入品金高	一千五百八十五万八千 八百弗
輸出	二千六百〇五万三千六 百〇三弗
輸出ノ内訳	
生糸	一千九百六十八万九千九百 九十五弗
屑物	二百〇五万九千八百廿八弗
製茶	四百三十一万三千七百八十 弗
輸出超過	一千〇十九万四千八百〇三 弗

十日

諸橋氏ニ書ヲ寄ス

米英獨三国ノ代表ハ、サマア国王ヲ主  
權」者ト見トメタリ」

獨逸ハ巴西ニ對シテ嫌惡ヲ抱タキ、瑞  
西」ハ之ニ反ス

魯埃ノ關係旧ニ復シ、魯ハ (ブルカリ  
ヤ) ニ對シ」テ手ヲ出サ、ルコトニ決  
セリ」

魯國陸軍大臣ハ、(オテツサ) (キール)  
波蘭」等ニ兵備ヲ脩サム

巴西政府ハ普通撰拳ヲ執行ス

獨人類ニ巴西公債ヲ購求ス (以上旧臘  
中旬ノ通信)

一昨七日獨逸大皇太后アウグスタ崩御  
英國ニ於テ流行病蔓延 (バッキングハ  
ム) ニ於」テ患者五万人ニ及ベリ (一  
月六日報)」

[11頁]

此日早川氏ニ至タリ書物ヲ返却」シテ、  
且ツ須田虎次郎ナル人ニ遭ヒ、同」人  
ヨリ名刺ヲ贈ラレ、辱知タランコトヲ」  
求トメラル、早川氏ハ余ノ旧知ナリ、  
余」ノ肺患ニ遭フテ帰 (婦) 郷スルヤ氏  
ハ來」京ス、性素ト柔善ナリシガ、遂  
ニ天魔」ニ昧入セラレタリ、余郷ニ在  
リテ之ヲ聞」キ一篇ノ無名書ヲ送クリ  
テ、之ニ勸告」セリ、然ルニ文意甚ハ  
ダ粗齒激烈」大ニ彼レガ怒ヲ招キタリ、  
怒ヲ招ネクハ」尚ホ可ナリト 金モ、同  
氏ハ其書ヲ以テ」余及ビ氏ノ知己熊谷  
氏ノ所為ト」ナセリ、余何ソゾ嘆セザ  
ルヲ得ン、直」チニ前失ヲ吐露シテ熊  
谷氏ノ冤ヲ」雪カント決心セリ、然レ  
ドモ余ノ性」タルヤ甚ハダ怯ニシテ面  
折廷争堂」々ト君子ノ争ヲ為ス能ハズ、  
動モスレ」バ陰言スルノ傾アリテ、為  
メニ白狀」ノ一事モ口ヨリ出デント欲  
スルコト屬」ナリシト 金モ、因循姑息  
嚙嚙言フ」能ハザリシハ、我ナガラ耻  
カシキ至リ」也、嗚呼左丘明ノ能クシ  
タル怨ヲ」隠クシテ其人ヲ友セザルハ、  
余能ハ

[12頁]

ザル也、司馬光ノ音無過人者但平生所  
為未嘗有不可對人言者ニモ能」ハザル  
也

十一日

此日徴兵事件ニ付キ、本」郷区役所其  
他ニ奔走スルコト半日」家嚴ニ書ヲ送  
クル」午後鈴木時ノ介氏ニ至リ亦」平  
松氏ニ至タリ飯路木村氏ト共」ニ佐藤  
良氏ニ至タリ、流連遂ニ學」課ヲ休ス  
ム、世事外物ノ妨礙ト」ナルコト大概  
此ノ如クシ

十二日

熊倉氏來訪ス  
霜鳥二氏 三田ニ至タリ、山崎半藏」  
及渡辺ノ二氏ヲ襜ヒ來ル

十三日

1. 廿二年中東京府下ニテ火災ノ總數」  
ハ出火度數七百五十五、焼失戸千二」  
百三十九戸、廿一年ニ比スレバ七十」  
八度ヲ増シ、八百廿九戸ヲ減ジタリ

[13頁]

2. 東京控訴院へ所管輕罪裁判ノ」不  
服ニテ控訴セシ者ハ廿二年ニ四」百  
卅件、廿一年度ハ四百四十七件」廿  
二年度ハ三百廿二件ナリ
3. 東京輕罪裁判所檢事局ニテ廿二」  
年中取扱ハレタル件數ハ四千百八  
十二件ニシテ、其人員ハ四千九百八  
十五」人、前年ニ比スレバ總件數八  
百一件、人員」千〇九十六人ヲ増加  
セリ
4. 先月廿六日 (マサツチユセツツ)  
州ノ (ライン)」ニ於テ火災起コリ、  
午前ニ既ニ千六百万」円ノ損害アリ  
シト云フ (廿六日紐育發)

十二日ヨリ暴風、今日午後ニ至タリテ  
止」ム

十四日

雪霰交降  
鈴木氏ヨリ書狀來タル

十五日

熊倉氏來訪

訪佐藤富七氏病於第一醫院  
巴西革命後ノ後報ハ、同政府ハ遂」ニ  
先帝ドムペデロ其他ノ皇族ヲ

[14頁]

国外ニ追放スルコトニ議決セリ、昨ハ」  
九立ノ位ヲ踐ミ億兆ヲ赤子トシ玉フ」  
御身ナガラ、今ハ空シク住ミ馴レ玉ヘ  
シ」九重ノ都ヲ跡ニ龍田川悲嘆ノ深サ」  
幾許バカリ、時勢ノ為メトハ云ヒナガ  
ラ」ナドカ嘆カテ居カルベキ、斯ク羸  
(羸)顛」劉蹶絶ヘザル中ニ朝日ノ直刺  
セル」国、夕日ノ照ラス国ニ白雲ノ豔  
ビク」富士ノ宮柱太敷立テ、大八洲蝦」  
夷ノ北ヨリ琉球ノ南ノ端マデ、千」代  
万代君ガ恩沢ニ霑ホヒテ、君ト」臣ト  
ノ其間ダ弥陸ビニ睦ビ、弥榮」エニ榮  
ユルハ仰ギテモ餘マリアル」事ゾカシ、  
此議決葡萄牙ニ達スルヤ」国内ノ不平  
党激昂ノ模様アリ」往年米國ノ獨立、  
佛國ノ人心ヲ」感動セシ例アレバ、同  
國政府ノ為」メニ痛心スベキ事ナリ」  
ベーリング海峡ニ鉄橋ヲ懸ケ」海上六  
十英里ヲ横断シテ、東西」兩球ノ連絡  
ヲ為ス計画起レリ」必ラス信ヲ置クベ  
シト云フニアラネ」ドモ、隨分ノ好奇  
心ナラン、杜牧」

[15頁]

之ヲシテ生レシメハ、彼ノ譬喩モ如何」  
アルベキ、英佛海峡ノ連絡、巴奈馬」  
ノ開通、西比利亞ノ鉄道ヲ觀察」スレ  
バ、(アーノルド)氏Material」Culture  
ハ愈上騰スルヲ知ルベ」シ、氏果タシ  
テ三途河上大声疾呼」High Cultureヲ  
唱フルヤ否ヤ」呵々 (以上二件日本)

十六日

十三日元老院議官坂本政均氏」卒去、  
村上英俊翁逝ク  
再訪佐藤氏於醫院、元來面會ハ」事務  
所ノ檢閲ヲ請ケザルニアラザレ」バ許  
ルサ、ル者ナレド、余ハ時々參院」且  
ツ門監モ承知シ居ル故、平然」トシ進  
ミ、其々ノ用事ヲ辯ジ、飯路」將ニ足

駄ヲ穿タントスルヤ突然門」監ノ注意ヲ惹起コシ、彼レ囁々数」十言遂ニ貴君ハ吾輩御見知り申」シタレバ、別段ノ差支ハアラザレド、御」朋友ナドヲ誘ヒテ御出デナリテハ」必ラズ事務員ノ許シヲ御受ケ

[16頁]

アルベシト申シタリ、余立ツコト五六分」大ニ閉口、稠人廣坐ノ中ニ己レヲ評」サル、ハ、善ニモアレ悪ニモアレ餘マリ」心快キコトニアラズ

朝鮮国内ニ東西學派ノ二種アル」ヨシテ、其中東學派ハ頗ブル激」烈ノ様子ニテ、近頃其徒權清一」ナル者發露セラレ、連累三十余名皆」ナ縛ニ付キタル由、先キニハ弒逆ノ」計画アリ、今又此變アリ、知ルベシ」国是ノ一定セザルヲ当路者朝鮮」ヲ駢拇視スル勿カレ、朝鮮ノ後ニ」暴猛ノ驚アリ

十七日

「少佐ピントー氏ハ昨年十一月頃、マロ、」族ヲ征伐シテ之ヲ破ブリ、且ツ英國ヨリ同」種族ニ授與シタル国旗ヲ奪ヒタリ、是」ニ於テ英ハ葡ニ對シテ嚴重ナル談判ヲナ」シ、漸ヤク事平ゲントシタルトキニ、葡内閣ノ外交」政略國民ニ容レラレズ、内閣辭職」群民暴起、英領事館ノ窓ヲ破壊セリ」同國ハ先キニ巴西革命ノ影響ヲ受ケ」

[17頁]

今亦此變事ニ遭フヲ知ラズ、如何ナル処」置ヲ為スヤ（一月十四日）  
巴西廢帝ノ皇后病ニテ崩ズ（十二月三十日）」巴西首府ニテ、革命党ト非革命党ノ間」ダニ、十八日ヨリ廿日迄テ戦争アリテ、遂ニ」共和政府ノ為メニ鎮定セラレタリ」（十二月廿六日）  
佛國政府ハ、兩國（英佛）間ノ鉄橋圖」案審査委員ヲ任命セリ（十二月廿六日）  
流行病愈猖獗（十二月廿六日）  
貴族議員資格者ノ数ヲ聞クニ  
公爵十人 侯爵二十四人 伯爵七十四」

人 子爵三百一人 男爵八十四人ナリ」此日北村三郎氏著 支那帝國史」ヲ読ム、氏ノ文字ハ豪爽ナリ、其意見モ」亦往々看ルベキ者アリ、然レドモ此ヲ要」スルニ、此書ハ真成ノ歴史學上ノ價值」ヲ有セザルノ嫌アリテ、而シテ氏ノ性質ハ」大言自カラ喜コブ者ノ如トシ」

殉難詩草ヲ寫ツス、詩トハ志ナリト」信ナル哉、此等ハ文學上賞美スベキ」点少ナシト云モ、其精神ハ頌揚スルニ」至タル、蟲ヨリ細ニ入り豪蕩ヨリ純粹」

[18頁]

ニ入ル、豈ニ商ニ文章ノミナランヤ、維新」以前輿論ノ大立者ハ、尊皇攘夷ナリ」維新以後近年ニ至タル迄ノ代表者ハ」自由民權ナリ、今マヤ邦入ハ進ンデ」實地ニ研究セザルベカラズ、何ヲカ曰ハ」ク政務ナリ、如何シテカ、曰ハク、統計的」ニ實着的ニ注意セヨ、政治學ト政治術」トハ大ニ懸隔スル者、此世ハ萬事」Theoryヲ以テArtニ適用スベカラズ」我國ノ政党ハ、今ヤ四分五裂是レ」勢ナリ、然レドモ、一二年ヲ經過ナサバ」亦タ團結スルナラン、今日ニ至タリ特ニ人」カラ以テ其連合分離ヲ抑制セント」欲スルハ、智者ノ計ニアラズ、我國白」頭ノ政治家以テ如何トナス

霜鳥氏ニ邂逅ス

十八日

十六日前田正名氏ハ農商務次官ニ」任ゼラレタリ  
神奈川縣廳ニテ、昨廿二年中内外交渉」民事訴訟事件ヲ取調ベタルニ、各國領事」ハ照會セシ者七十二件ニシテ、前年ノ繰越」

[19頁]

高二十七件ヲ合スレバ、九十九件ナル由」之ヲ別スレバ、英四十八件 米十七件」清十五件 獨十件 西二件 瑞、

佛」瑞西各一件、其結果ハ本邦人直四十一件」曲十件 示談済十七件 却下三件 願」下一件 未決二十七件ナリ」又同廳ニ於テ内外人ノ結婚数ヲ取調」ベタルニ七件、前年ノ涉り合ヒタル者ヲ合シ」テ十件ナリ

石狩国上川郡ノ内離宮ヲ設ケラル、由」ニテ、其準備ヲ總理大臣ヨリ北海長官ニ」達シタリ、同道ノ人口三十二万六千六百余人」ナリト云フ」

佐藤氏ヲ駿河臺和泉氏ニ訪フ時」ニ、雛田 熊倉 鶴巻ノ三氏モ亦タ至タル」関利八氏ノ惠ヲ以テ新潟発兌ノ諸」新聞ヲ看ルコトヲ得タリ、余ノ初ジメ在」郷スルヤ、此等ノ新聞ヲ以テ其紙幅」大ナリトナシ、其記事面白ロシト為シ、其」論説卓越ナリト為セシガ、上京後ハ」殆ンド之ト反對シ、其記事ヲ見レバ欠」伸ヲ生ジ、其紙幅ヲ看レバ可憐ノ念」ヲ起コシ、其論説ヲ看レバ未マダ終」

[20頁]

ハラズシテ目閉ヅルニ至タリ、而シテ其」新聞ハ旧日ヨリ寧シロ改良シタル新」聞ナリ、亦タ以テ居志ヲ移ツヲ觀ルベ」シ、是ニ於テ吾レ之ヲ知ル、彼ノ洋行」者、或ハ西洋心酔者ノ臭味ノ在ル」所ヲ、嗚呼磨シテ磷セズ、涅シテ」緇セズ、卓然トシテ自家面目ヲ維持」スル者ソレ幾人アルカ、若シ有ラバ」余ニ鞭ヲ執ルト 金モ辞セザル也 昔者之主鉄木真其目眇ナルヲ以テ画臣」ノ其像ヲ画クヤ大ニ困ルシメリ、世傳ヘテ」以テ奇話トナス、往歳田代某画家、小原」氏ヲシテ其像ヲ画カシム、小原氏綿」密丁寧其容兒生クルガ如トシ、氏竊」カニ自カラ其寫生ニ妙ナルヲ負ハシ、之ヲ某」ニ示メス、某一見大ニ怒カリ咄呆漢何ゾ」無礼ナル、視ヨ此画ノ顔ヲ、何ゾ痘痕」ノ粒々太甚シキヤト」又画士アリ、山水ヲ画カキ河中浮ブルニ」蒸氣船ヲ以テス、傍人之ヲ難ジテ

曰ク」山水此レ瀟洒タル仙境ナリ、何ゾ如」此俗界ノ船ヲ寫スヤ、豈ニ蓬窓漁夫ノ」出塵ニ如カンヤト、画士曰ク、然ラズ、画ハ」

[21頁]

其意真ヲ寫ツスニ在リ、天地ノ万物豈」ニ画カエテ不可ナル者アラン、況ンヤ蒸」氣船ニシテ山中ノ水流ヲ上下スベカ」ラザル者トセザルヲヤト、辨難攻撃一」夜ヲ徹セリト云フ」

以上二話我學友雛田氏ノ談ゼシ所」也、其事甚ハダ珍奇故ニ録シテ、他日」消閉ノ觀ニ備ナフ」

余新潟新聞ヲ觀ル、紙中、博奕」ノ法律ヲ以テ制止スベカラズ、却テ社」會金融ノ一助トナルヲ以テ、之ヲ奨励」スベキヲ論ジタルノ一文アリ、其誰ノ作」タルヤ審カナラズ、且ツ其論数日ニ亘タ」リ、余ノ看ル所ハ其一分ナルヲ以テ、前後」ノ論点如何ナルカハ不明ナリト 金モ」奇異ナル説ト云フ可シ

十九日

此日朝九時、佐藤氏ノ飯屋ヲ」送クリテ上野停車場ニ至タル、氏ハ」奮然志ヲ立テ来レリ、然レドモ今ヤ」病ノ為メニ羸(羸)然トシテ飯レリ、才子多」病ト氏豈ニ才子ナル乎、豈ニ夫レ然」

[22頁]

ランヤ、此日熊倉 雛田 関ノ三氏モ同伴ス」笹川氏ヨリ書来タル、氏ハ昨年脚疾」ノ為メニ飯屋セシ者ナリ、聞ク、今春」来タルト、喜コブベシ、昔者孟軻氏」君子ノ三楽ヲ記セリ、余将サニ之ニ加」フルニ知己□友無故令聞四達」是一樂也トノ意ヲ以テセントス

二十日

早川氏ニ到タリ借書ヲ返却ス」雛田氏ト共ニ駿台和泉氏ニ至タリ、佐藤」富七氏ノ書箱机等ヲ持ち来ル」蚤起寢惚眼ヲ一寸開キシニ、地上」皚々枯枝亦タ生花蓋タシ時大寒ニ際」シ天其兆ヲ示メシ也



二十一日

熊倉氏ノ為メニ博文館ニ行ク」昨日法律第三号ヲ以テ府縣本土」費借入ノ件ヲ発布ス」伊太利国皇族ヂユツク、ダマスト殿下薨」去セラレタリ、(十九日通信)  
本日ハ清国光緒庚寅正月元旦ナリ

[23頁]

支那政府ハ此程北方露境ヲ戒メン」ガ為メニ大砲三十六門(一門五百万」フランク)ヲクルツプ會社ヘ注文シタリ」(二日通信)」  
江東中村楼ニ於テ大江(井)憲太郎中」江篤介ノ諸氏等、自由党結党式ヲ舉」行ス  
鶴巻氏等豆ヲ會食センガ為メニ、余及」ビ雛田氏ヲ呼ブ、由テ早速至タル、其嚙」音カリカリ然タリ、物徂徠曰ハク、豆ヲカ」ンデ天地間ノ豪傑ヲ罵尽ス程快」ナルハナシト、或ハ然ラン」  
兩三日以前少年ヲヲ讀ム、其書中ニ曰」ヘルアリ、近眼ノ豫防法ニハ、毎日冷水ヲ」以テ目ヲ洗ラヘ、光線ヲ左方ヨリ受ケ」Focusヲ定ムル等ナリ、依リテ其日ヨリ」直チニ毎日一度ヅ、目ヲ洗ラフコトナシ、且」ツ朝モ冷水ヲ以テ顔ヲ洗ラフコトニ」定ダメタリ、眼ハ生命ノ次ナリ、輕々敷取扱」フ可ラズ、余ハ少年ヨリ近眼ナリ、尤モ性」質ナリシカ人ヲナリシカ不明ナリト蚕モ、今」ニ考フルニ、我祖父君教育ノ道嚴重」ニシテ、朝ハ奴僕ト同ナジク起コシ、暗」

[24頁]

キトキハ燈下ニ読マシメ、明暗相中タル曉」天ヨリ間斷ナク督責勉勵セシメ、夜モ」奴僕ト同ナジク十時ヲ過グルニアラザレ」バ寢スルコトヲ許ルサズ、元旦ナリ節句ナリ」益會ナリ、青表紙ヲ繙カザルノ日ハナキ」也、斯ル教育ナリシ故、終日書室ニ閉」ヂ込メラレタル故、余ノ心神体育ニ大」ナル變動

ヲ生シタリ、其一ハ、身体虚弱」(近視眼モ其一ナリ)、其二ハ、野遊郊外ヲ」嫌ラヒシナリ、其三は、世ノ少年輩ノ如トク」諸々ノ遊戯(疾走、飛躍、角力、競舟、水」練、鋸、小刀等ヲ使用スルコト)ニ熟セズシ」テ、生活上色々不便ヲ感ジタルコト、其」四ハ、世間話シニ疎トキコト是ナリ、但ダ」利セシ処ハ書物ナリキ、余ハ六歳ノ時」ヨリ大學ヲ素読セリ、夫レヨリ四書ヲ讀ミ」続ケ、詩經 書經 春秋 礼記(半分)等ヲ」モ習ナラヒ、拾一二才頃文章軌範 十」八史畧 日本外史ヲ半ハ習ナラヒ半ハ獨」読セリ、拾四才頃西蒲原郡中學校」ノ募集ニ応シタリ、然カシ入學試験ニ落」第セリ、其源(原)因ハ、第一余ノ是迄勤シメ」処ハ書ノミニシテ、算術ハ加算ヲモ知ラ」

[25頁]

ザリシ事、第二漢文試験ノ時、日本外」史ノ訓点講釈ノ筆答ナリキ、其時試験」ノ人曰ハク、意義ヲ書スベシト、余此意義ノ」二字ヲ解スルコト能ハズ、只ダ其訓点ヲノ」ミ付ケ、意義即ハチ講釈ヲバ書カザリシ」ナリ、此ニ欠点ヲ以テ落第セリ、然カシ其」頃ハ余マリ残念ニアラザレド、今考フルトキ」ハ実ニ切齒ノ至ニ堪ヘズ、何トナレバ其」頃ノ試験ニ(實ニ平々凡々ノ問題)及等(第)セ」シナラバ、今ハ既ニ高等中學カ或ハ大」學ノ初年ニ居ルベキ者ナリシヲ、其後」再度ノ募集ニ応センガ為メニ、其稽古トシテ」特ニ數學ノ稽古トシテ余ノ從兄更科」文三郎氏ノ木戸校ニ從事セシニ托サレ」タリ、余ハ此校ニ於テ一年程算術ヲ」稽古セリ、然カシ如何ナル故ナリシカ其」算術ハ直チニ頭ノ中ヨリ逃奔シ、少コシモ」余ニ仕ヘザリシ也、此算術ノ不出来ハ余」ヲシテ一生中等完全教育ヲ受ケザラ」シメ、其後東京ニ來タリ代数 幾何等ヲ」習ナラフニ及ンデモ、余ナガラ呆ル、計リ不」熟練、試験ニ數學ニ

何時モ落第点」ヲ取りタリ、此ノ魔病ハ余ヲシテ変則」

[26頁]

學生ノ悲境ニ陥エラシメタリ、斯クテ木戸」校ヨリ飯り村立ノ小学校ニ於テ普」通教育ヲ受ケタリ、余ノ最モ得意ナル者ハ」讀書力ナリシ、故ハ余ハ其頃校中第一」ナリキ、十五才頃縣官ノ巡回ニ遭ヒ、余」ハ其面前ニ於テ日本外史楠夢ノ一条」ヲ講釈シタリキ、此時縣官ヨリ天晴レ」珍ラシキ小供ナリトノ賞辞ヲ受ケ」其後縣廳ヨリ褒状ヲ受ケタリ、若シ当」時算術ナラバ背汗ノ至リナリシナラン」十五才ノ頃東京ヨリ流落セシ書生原田」二階堂某ノ二氏我校ニ來タリテ授」業セリ、余ハ當時半分ハ同氏ヨリ習ラヒ」半分ハ同氏ヲ助ケテ教シエタリ、原田氏」ハ漢學ト作文ノオアリシ故同氏ヨリ作」詩ノ法ヲモ習ナラヒタリ、同氏ハ酒ヲ好ノ」メリ、余モ亦少々酒ヲ飲ムニ至タレリ、同氏」ハ英學ヲ知レリ、余モ英學ヲ習フニ至レリ」同氏ハ頻リニ自由民権等ノ政治口調ヲ」為セリ、余モ亦タ此ヲ習ラヒ自由ヲ如何セ」ン、條約改正未マダ成ラズ等ノ無暗」滅砲ノ議論ヲ為シタリ、斯ク無ヤ苦」ヤ、明治十八年ノ秋、余ノ十六歳ノ折

[27頁]

粟生津村長善館ニ往キ、鈴木揚軒」先生ヨリ漢學ヲ受ケ鹿之介先生ヨリ英學」ヲ受ケ、其他数学ヲモ習ラエリ、是ニ於テ余」ノ多年祖父ヨリ薰陶セラレシ効驗見ハレ」當時等一等ノ級ニ編入セラレ、史記ノ」講輪ヲ為シ、且ツ孟子ノ聽講ヲ為セ」リ、英學トテモ原田氏ノ所ニウキルソン第壹」讀本中頃迄習ラエ置キシ故、元卷中生成」田氏ト直チニ第二讀本ヲ教エラレタリ、其」他ハ皆A、B生ナリ、數學ハ加算ヨリ」習ラエ初メタリ、カクテ余ハ漢學ニ取リテ」ハ余マリ人後ニ立タズ、大抵一

二番ノ位」置ヲ占メ、且ツ文章モ上手ト人ヨリ言ハレ」館中ノ過半ハ余ノ添刪ヲ受ケテ後先生ニ」出セリ、余ハ室長ニ舉ゲラレタリ、此役ハ」實ニ余ヲシテ困却セシメタリ、余ハ一時」食堂賄事件ノ為メニ不穩ノ無名建白」ヲ為シ(其同盟者五六名、最後ニ退館」スル約束ナリ)一室ニ捕ラヘラレ、十二三日」計リ嘿然タリ、他ノ人ハ皆ナ退館シタリ、」余独トリ謝罪状ヲ書シテ再タビ入館」シタリ、當時余ハ以為ラク一旦約束シ」タル者ヲ余一人其盟ニ漏レタルハ」

[28頁]

如何ニモ耻敷事ナリト思ヒシカドモ」如何セン此館ハ從來吾父兄叔伯ノ」訓導ヲ受ケシ所ニシテ、其館主トノ縁」念厚カリシ故、父ハ強テ余ヲシテ入館」セシタリ、余ハ其四五日ハ人ニ面ヲ見セ」ルコト能ハザリキ、今デモ實ニ破廉耻ノ事」ヲナシタリキト思ヘリ、孟子ヤラ誰ヤラ」君子ハ不諒トカ不義ノ信ハ守ルニ」足ラズトカ言ハレタレド、此等ハ一見」鮮アル人ノスルニコトニシテ、常人ノ為ス」可キコトニアラズト思ハル、其後追ニ旧」學友の上京スルヲ見、心竊カニ之ヲ羨」望シ、再三父兄ニ請願シテ漸ヤク」二十年秋十月上京セリ、始メハ法律カ」何ニカニ三年モヤリテ卒業スルナラ」バ、大先生様ト云ハルベシト思モヒ、余」ガ叔父ノ熊倉氏ニ謀リシニ、同氏ヨリ」懇々學問世海ノ有様ヲ説キ示サ」レ、是非共高等中學ヘ入ラザルベカ」ラザルコトヲ説得セラレテ、遂ニ其豫」備ニ掛レリ、然ルニ二十一年ノ初」夏、急ニ肺疾ニ罹カリ止ムヲ得ズ」帰(帰)国セシガ、是ニ於テ余ハ始メテ」

[29頁]

學問ヲ為スニハ、特ニ高等ノ學問ヲ」為スニハ金力ナカラベカラザルコトヲ

猛省シ」テ父君ニ其方向目的ヲ談ジタリ、然」ルニ、其力足ラズ遂ニ大學ノ目的ハ倒レ」一種ノ變則教育ヲ受ケル豫計ニテ」明治廿二年初夏上京シ、漸ヤク大学」撰科ニ入ルノ目的ヲ以テ學業ヲ豫」習シ、今年將ニ其試験ヲ受ケント」欲ス、不知果タシテ合格スルヤ、或ハ」中學試験ノ覆轍ヲ踐ムヤ、以上」ハ今日余マリ閑暇ナル故、後ノ」覺ノマニマニ余ノ學業履歷ノ」一班ヲ記ルシタル者ナリ

諸橋氏ヨリ賀状來タル

二十二日

學校ヲ休課ス

此日墨壺ニ墨ヲ注入スルコト及ビ英文」學ヲ讀ムコトヲ以テ一日ヲ輕過ス

二十三日 雨

此日少年文武ヲ讀ミ、日本刀ノ詩ヲ」

[30頁]

作ル、余ハ元來文章ハ詩ヨリモ日用上必要」ナルコトヲ知ル、然レドモ余ハ堅タク信ズ、百代ニ」傳ハリ永カク人心ニ銘スルハ寧ろ詩ナリト」何トナレバ、文ハ人ノ思想ニシテ、詩ハ人ノ感情ナリ、人トシテ思想ナキ者アリト 蚕モ、感情」ナキ者アラザル也、此故ニ何國ヲ問ハ」ズ、詩ハ文ニ先ダツテ生ズル者ナリ、八重雲」歌、或ハ堯帝記老人歌、或ハHomer's」Iliad以テ觀ルベシ、(マコレー)氏」曾テ(ミルトン)論ニ、詩ハ開化ト其利益」ヲ同フセズ、文明ノ世ニ生レテ詩ノ名人ト」ナルハ難タキコトナリ、此故ニミルトンノ以」テ大詩人タルヲ觀ルベシト、余此論ヲ」以テ李杜ヲ追賞セント欲スル也

今ヤ世益SpecificトナリテGeneral」退ソキConcreteトナリテAbstract」止ム、詩人タル者又難タエ哉

新島讓氏逝ク、行年四十六才ナリ

備後国深津郡千田村ト市村」トノ境ニ在ル藏王山ハ其高サ三百間」ニシテ、福山市ヲ距ル二十余町ナリ」十六日突然噴火シ飛土迸石市街」ノ入口ニ積モ

ルコト凡ソ一尺以上一人」

[31頁]

馬二頭、牛八頭、家五十四戸皆無ニ皈」シタリ、其損失三百四十万円ナリ」霧島嶽モ十日頃ヨリ大ニ噴火、十八」日ニ至タリテ太甚シク白昼途ヲ失ヒシ者」アリ、爾後鳴動尚ホ止マズト、廿二日」ノ」官報ニ在リ

本日九日巴里通信ニ曰ク、武將ハ佛」國ヨリ紐育ニ渡航スルコトニ決シタリ

學校休課

廿四日

駿河臺ニ於テ田中氏ニ邂逅ス、余」同氏ト分袂、茲ニ一年餘突然氏ニ」呼ビ止メラレ熟視其奇遇ニ驚口」キタリ熊倉氏ニ交番所ノ前ニ遭フ」學校ヘ行カント欲シ足駄ヲ穿テ坂ヲ」下ダリシニ車尾糺キ絶、再ビ宅ニ皈」リテ下駄ヲ穿ヲテ行ク

一等警視從六位奏任官二等村上」楯朝氏ハ、新潟縣書記官ニ任ゼラレ」近藤幸止氏ハ、和歌山縣書記官ニ任」ゼラレタリ、又前田正名氏ハ農商務次官」

[32頁]

ニ任ゼラレ、原敬氏ハ同大臣秘書官」ニ任ゼラレタリ」少佐(ウキスマン)氏ト(バナヘレツス)酋長」トノ間ニ激戦アリ、独逸人五十名負傷シ」タリ

(ノールエ)(ウキスト)(クエンストラ

ンド)大洪水」ニテ、三百英方マイル水中ニ没シタリ」(一月八日發)

錫蘭茶田ハ七百<万>四千六百六十四」丁」ナリ

日本全国神社合計二十九万四千八」百二十二社ニシテ、神官總數一万四千」八百四十九人ナリト云フ

(立教大学文学部史学科 浅見 恵)